

楽 本

Sapporo Education and Culture Hall News

RAKU



[特集]

洗練された「観世」と 舞が魅力の「金剛」と



札幌市教育文化会館

札幌市教育文化会館情報誌「楽(らく)」は舞台芸術を気軽に楽しんでいただきたいという思いを込めて名付けられました。

六〇〇年の時の流れを感じる世界

洗練された「観世」と 舞が魅力の「金剛」と

能には観世流、金剛流、金春流、宝生流、喜多流の五流派があり、それぞれに特徴があります。

能が現在のようになつたのは一三〇〇年頃の室町時代のこと。それまではサーカスのような「散楽」や動物などの物真似を行う「猿楽」など、滑稽なものが人気を集めていました。十三世紀頃にはそうした芸人達が「座」という集団を形成するようになり、次第に謡や優雅な舞を中心とした真面目な演目へと変化していったようです。

その「座」は神社に能を奉納することを目的としており、法隆寺には坂戸座、談山神社には外山座と結崎座、初瀬寺には円満井座がそれぞれ奉納しており、全て大和（現在の奈良県）を本拠地として

活動していたことから大和四座と称し能の四流派の源流とされています。現在では能は五流派とされていますが、喜多流が誕生したのは四座が活躍した時代から三〇〇年後の江戸時代のこと。このため、能の流派を四座一流と呼ぶこともあります。

四座は次第に各地で人気を博していきましたが、中でも観阿弥・世阿弥親子を擁する観世流は足利家と徳川家の庇護を受け、室町時代から江戸時代にかけては京都や江戸を中心に勢力を拡大していきました。

現在でも観世流には五流派の中で最も多い約六〇〇名の能楽師が所属し、流派ごとの上演可能なレパートリーである現行曲も二〇九曲と最多を誇り、長い時間、

首都で磨かれて続けてきた洗練された謡舞が魅力です。

現行曲が二番目に多いのは金剛流（二〇二曲）。喜多流が江戸時代に金剛流から分派していった経緯もあり登録能楽師九〇名と人数は少ないものの、五流派の中で唯一、京都を本拠地とし、優美かつ豪快な舞から「舞金剛」と呼ばれ人気を博しています。ちなみに能の代表的な「土蜘蛛」の千筋の糸を考案したのも金剛流です。

普段は異なる流派の能が同時に披露されることはほとんどありませんが、「京都能楽味くらべ」いちどに楽しむ「観世と金剛」は公演名の通り、観世流・金剛流の二流派が一度に楽しめる舞台。能に詳しい方にはもちろん、そうでない方にも贅沢な公演です。

【あらすじ】
天王寺へと参る途中の旅の僧が摂津（現在の大阪北部と兵庫県南東部）の野田までやってくると、にわかには雪が降ってくる。僧が晴れ間を待っているとき美しい女が現れ「迷いを晴らして欲しい」と訴える。仏縁を結んで成仏するよう勧めると、女は喜んで舞を舞い、明け方の光の中に消えていった。女は、風にひるがえる雪そのもの、雪の精であったのだ。

観世流「融舞返（とおるまいかえし）」

【あらすじ】
京都を訪れた東国の僧が六条河原院まで来たところ、汐波（しほなみ）道具を背負った老人が現れる。「海辺でもない六条河原で汐波みとは？」と訝しがる僧に老人は「今は荒れ果てているが、この院は左大臣源融（みなもとのとのおる）が、陸奥の塩竈（現在の宮城県塩釜市）の景色そのままに造園し、海水を運んで風流を楽しんだ場所だ」と謂れを語る。荒れ果てた院を嘆く老人を慰めようと、僧は都の名所を教えて欲しいと頼む。色々と名所を挙げながら月を見て「汐を

【特徴】
「雪」は金剛流だけにしかない演目。ストーリーはシンプルでわかりやすいものです。シンと静まり返った空気の中で行われる問答と、雪を踏みしめるかのような音を立てない足拍子、さらには金剛流独特の舞が見どころです。

汲む頃間だ」と言い残り消える老人。近くに住むものから「それは源融の亡霊だろう」と教えられ、僧は供養をする。すると、僧が寝ているところに源融が貴公子の姿で現れ、月光に照らされながら舞を舞う。そして夜明けと共に月の都へと去った。

【特徴】
稀代の天才・世阿弥の名曲。荒涼とした六条河原に現れる源融の亡霊と月の満ち欠ける様子がかつての源氏の盛者必衰を現しています。



京都能楽あじくらべ いちどにたのしむ観世と金剛

- 能「雪」 金剛流 豊嶋晃嗣
- 狂言「呼声」 大蔵流 山正邦
- 能「融舞返」 観世流 片山伸吾

謡の「観世」・舞の「金剛」、二流派一挙公演!!

【日程】 2011年6月29日(水) 18:30開演(17:30開場)

【会場】 札幌市教育文化会館 大ホール

【料金】 S席:5,000円 (ホールメイト 4,500円)
A席:3,500円 自由席:2,000円

【チケット取り扱い】 教文ほか市内各プレイガイドにて発売中
【教文プレイガイド】 tel.011-271-3355

【お問合せ】 札幌市教育文化会館 事業課 tel.011-271-5822

レクチャー

観世と金剛、何が違う?

二流派による舞くらべ

「観世流」と「金剛流」、それぞれの流派の能楽師がトークと実演を交えて分かりやすく解説します。初心者の方もぜひどうぞ。

【日程】

2011年6月28日(火) 19:00開演(18:30開場)

【会場】

札幌市教育文化会館 大ホール

【講師】

片山伸吾(観世流シテ方)
豊嶋晃嗣(金剛流シテ方)ほか

【料金】

1,000円(教文プレイガイドのみの取扱)
ホールメイト・学生、あじくらべ公演チケット所持者500円



「おしゃべりコネ・クート」 第1回放送内容

- オープニングトーク
- リーディング・ドラマ
- 教文年間スケジュール紹介
- 行こうよ!エンゲキデート!
- コネ・クートのおもしろ人間図鑑

パーソナリティ

服部亮太 (sapporo6h)
寺地ユイ (星くずロンリネス)
教文大使コネ・クート (札幌市教育文化会館)

出演

劇団yhs
ルイーザ (教文13丁目笑劇一座)
いかのかおり (教文13丁目笑劇一座)
ももちゃん (めいどカフェ ぶちあんじゅ)
桑原和彦 (札幌市教育文化会館)

構成 / 相澤享 (構成作家)
中継 / sapporo6h

ユーストリーム 教文チャンネル

「おしゃべりコネ・クート」 生中継

“ユーストリーム”ってご存知ですか?
インターネットで動画を生中継で配信したり、中継中に視聴者が質問を文字で投稿したりすることのできるサービスです。
札幌市教育文化会館では全国の公立文化施設に先がけて、ユーストリームの番組制作にチャレンジしました。

ホームページやブログ、ツイッターなど、インターネットを通じ、気軽に情報を発信することができるよう、注目を集めているのが、動画の生中継が簡単に配信できるユーストリームです。
テレビやラジオなどと連動して放送したり、ライブを中継したりするほか、放送用の機材が比較的簡易なものであるため、個人レベルでの配信も急速に増え、様々な番組が毎日放送されています。
全国の公立文化施設初のユーストリームを使った番組は、去る4月18日に一回目の生放送を配信しました。
番組タイトルは「おしゃべりコネ・クート」。パーソナリティと教文マスケットの「コネ・クートくん」が、当会館で行われるイベントや文化・芸術を分かりやすく伝える自主制作バラエティ情報番組です。
教育文化会館では、能や歌舞伎などの伝統芸能から演劇、オペラ、お笑いまで、幅広くバラエティに富んだ催しを行っています。ですが、まだ知られていない面もたくさんあります。

次回も
お楽しみに!!



パーソナリティの服部亮太さん (sapporo6h)
寺地ユイさん (星くずロンリネス)

動中の人気劇団、現役のメイドさんとともに、スタッフも登場し、親しみをもって見ていただける番組制作に挑戦しました。
初めての試みということですが、緊張感もありましたが、楽しく放送することができました。
今後は今回の反省点を活かし、さらに面白い番組になるよう企画。
毎月1回(不定期)配信していく予定です。ホームページをコマメにチェックしてください。放送会場は教育文化会館です。入場可能ですので、ぜひ遊びに来てください。
今後は舞台上に登場する方も出演するかもしれませんので、お楽しみに!



教文大使
コネ・クートくん
designed by ロケットデザイン